

ライフ・イノベーション分野
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和4年度

さがみロボット産業特区

[指定：平成25年2月、認定：平成25年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (4+4)/2=4

4.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	特区発ロボットの商品化状況	108%	5
2	実証実験等の実施件数	145%	5
3	県の企業誘致施策等を活用したロボット関連企業の件数	54%	2
4	生活支援ロボットに関する特区の取組に参加する県内中小企業の数	67%	3
5	生活支援ロボットの導入施設数	144%	5
6	生活支援ロボットを体験する取組に参加した人数	92%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値 (5×3+4×1+3×1+2×1+1×0) / 6 = 4

4.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 (3.7+3.7+4.5)/3=4

4.0

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.7

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.7

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.5

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.3

・生活支援ロボットの開発等に新規参入する企業数についてはやや伸び悩みがあるが、実際のロボット開発や商品化、導入が順調に伸びていることは高く評価できる。生活支援ロボットにより事業者や家族の負担が減るなどの影響があったかどうかについても評価可能であれば検討をお願いしたい。

・取組目標達成において、若干のバラツキが見られるが、全般的には十分な実績があがっていると思われる。

・多様な場面で生活支援ロボットの開発・実装が進められている。実装の今後としては、導入だけではなく効果検証や持続可能性など実生活への適用について更なる検討を期待したい。

・社会情勢に応じた新たな取組を実施した点を高く評価したい。生活支援ロボットを真に普及させるためには多くの供給側企業の参加が不可欠であることから、評価指標(3)の目標達成に向け継続的な一層の工夫に期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4+4+4.3 \times 2) / 4 = 4.2$

4.2

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。